

表紙

中央上

まんが

平戸のクリシタン

オテンペンシャ

苦行の鞭

作 田中能孝

絵 米倉裕治

下部左

ユネスコ世界文化遺産

長崎と天草地方の潜伏クリシタン関連遺産

最下部左

発行 平戸市文化交流課 2020 年 2 月

PAGE 1

No. 1

1565 年。集落の教会には説教を聴くため多くのクリシタンが集まっていました。

NO. 3

バシッ!

このムチはジジピリナ（discipline）と呼ばれます。＊ これは苦行に使うものです。

身を以てキリストの受難を学ぶため、私はこれで自分自身を打ちます。

NO. 4

※ ミゼレレ・メイ・デウス（主よ 憐みたまえ）と唱えながら自分の肉体を責める苦行を行います。

注 x2

左: ※ 1565 年 9 月 23 日付フェルナンデス書簡より

右: ＊ この鞭はのちに日本語で「オテンペンシャ」と呼ばれるようになった

PAGE 2

No. 1

※ 日本人信者たちは自分の身体をムチ打つことで病気を治癒したり身体から悪いものを追い出したりできると信じているようだった。

そして時が流れ…

No. 1 注

※1562 年 10 月 25 日アルメイダ書簡より

No. 2

1614 年、江戸幕府は日本全国でキリスト教を禁止する法令を発しました。外国人宣教師は追放され、教会堂は取り壊されました。

No. 3

多くの日本人キリシタンは信仰を捨てました。そうすることを拒否したものは処刑されました。

No. 4

一部のキリシタンは仏教や神道の要素を取り入れながら「隠れキリシタン（hidden Christians）」として密かに信仰を守り続けました。

PAGE 3

No. 1

日本から宣教師が居なくなった中、苦行のムチはお祓いの道具として使われ始めました。このムチはキリスト教禁止令が解かれた後でさえこのように使われました。

No. 2

2018 年 7 月。中江ノ島は世界遺産に登録されました。

No. 3

この島は隠れキリシタンの聖地です。* 隠れキリシタンたちは何世代にもわたり、オラショを唱えるなどの儀式を通じて信仰を継承しました。

No. 4

当初は信仰を実践する道具として伝えられたムチは、オテンペンシャと呼ばれるようになりました。* 日本では今でも、お掛け絵やお水瓶などの信仰具とともにオテンペンシャが崇められています。

左縦: * オテンペンシャという名称はポルトガル語で贖罪を意味するペニテンシアに由来する。

下横: * 日本語のオテンペンシャは元のポルトガル語ペニテンシアがなまったもの。

(No. 3 に新しい注が必要)

隠れキリシタンは禁教令が解かれた後もカトリックに戻らず、禁教中に実践していた信仰を守り続けた。